



今週月・火・水と3日間校長室を開放して、「昭和の時代ってどんな時代？」というテーマで、昭和の日用品等を展示し公開しました。提供してくださったのは東中校区に住む方です(名前は省略させていただきます)。

今回、校長室を開放し昭和のものを見てもらおうと計画したのには理由があります。その理由を生徒には28日の全校集会で「**待つことや忍耐力の大切さ**」と絡めて話しました。

展示物の中には明治時代に製造され、戦争を潜り抜けて今も元気に時を刻んでいるゼンマイ式の柱時計がありました。ゼンマイと言っても今の子にはわからない子も多いでしょう。全校集会ではそのことも説明したうえで、以下のような話をしましたので紹介します。

「…定期的にねじを巻かなければ、時計は止まってしまいます。だから、人生においても『ねじを巻く』ことが大切、とよく言われます。特に気持ちや態度がたるんでいるときに、その人を注意したり、叱ったりして意欲を出させる場合に『ねじを巻く』という言い方をします。ただ、どんなこともそうですが、ねじを巻きすぎるとゼンマイが苦しい苦しいと反発力をもち、痛めてしまうことがあります。ほどほどが大切になります。展示している柱時計は振り子がチクタクチクタクと小刻みなリズムを付けながら振られ、時を刻んでいますね。

黒い電話もありましたね。ダイヤルを指で回して戻るまで待つ、また回すというやり方です。素早く電話をかけることはできません。携帯電話のように持ち運ぶこともできず小さくありません。不便と言えば不便です。



昭和、平成、令和と物はどんどん便利になっていきます。スピードが速く小さい方がよいような価値がありますが、どうなのでしょう。

時の積み重ねを感じてほしくて地域の方にいろんなものを持ってきてもらいました。**すぐに結果を求めたり、すぐにダメだからとあきらめたり…。人間には忍耐が必要なのに、どんどんそういう精神が乏しくなっていくような気がしてなりません。人間性が乏しくなっていくようで心配です。(中略) 花は咲くべき時に必ず咲きます。大事なことに時間はかかることが多いです(以下略)。**